

令和3年 第7回文教厚生常任委員会会議録

令和3年 8月19日 議員控室

○事 件

所管課報告事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策に係る国の交付金事業の活用について（総合病院）
- (2) 八雲中学校大規模（長寿命化）改修事業について（学校教育課）

○出席委員（7名）

委員長 赤 井 睦 美 君
 関 口 正 博 君
 斎 藤 實 君
 黒 島 竹 満 君

副委員長 安 藤 辰 行 君
 佐 藤 智 子 君
 千 葉 隆 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（5名）

議長 能登谷 正 人 君
 三 澤 公 雄 君
 宮 本 雅 晴 君

大久保 建 一 君
牧 野 仁 君

○出席説明員（8名）

総合病院事務長 成 田 耕 治 君
 医事課長 石 黒 陽 子 君
 医療連携課参事 加 藤 孝 子 君
 学校教育課長 石 坂 浩 太 郎 君

総合病院副事務長 竹 内 伸 大 君
 地域連携課長 長 谷 川 信 義 君
 教育長 土 井 寿 彦 君
 施設係長 若 山 晋 悟 君

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君

庶務係長 松 田 力

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） それでは、第7回文教厚生常任委員会をはじめさせていただきます。

◎ 所管課報告事項

【総合病院職員入室】

○委員長（赤井睦美君） 今日は最初に、新型コロナウイルス感染症対策に係る国の交付金事業の活用について、総合病院からよろしく願いいたします。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） それでは、新型コロナウイルス感染症対策に係る国の交付金事業の活用について説明いたします。

資料1をご覧ください。本日、説明いたします交付金につきましては、第3回定例町議会へ補正予算として提出しようとするものであります。

（1）補助金名は、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金であります。

（2）事業期間は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までであります。

（3）交付金の趣旨であります。感染症棟患者の入院受け入れ病床を確保するため、あらかじめ確保した病床及び確保のために患者を受け入れることを制限し、空床とした病床に対し、空床補償料として交付されるものであります。なお、実際に患者を受け入れた延べベッド数につきましては、交付金の算定から除外されるものであります。

（4）対象病棟は、中央6階病棟であり、昨年度に引き続き感染症棟患者の入院受け入れに係る、重点医療機関の指定を受けています。今年度における病床確保は12床、確保のために空床とする病床は25床であり、中央6階病棟の全ベッドである37床が交付金算定の対象となるものであります。

（5）補正予算額であります。8億6,797万5,000円であります。収益的収入、医業外収益のみの補正となります。

以上で、新型コロナウイルス感染症対策に係る国の交付金事業の活用についての説明といたします。よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） ただいまの件について、ご質問、ご意見ございませんか。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） すみません、ちょっと聞き逃したんですけれども、どういう場合に除外されるか、もう一回説明していただけますか。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 除外の対象になる場合は、あくまで空床が生じた場合に交付金が交付されるものであります。実際に受け入れた場合には、診療報酬として収入が得られるものですから、その分については交付金から除きますという趣旨でございます。よろしく願いいたします。

- 委員（佐藤智子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。
- 委員（佐藤智子君） 確認ですけれども、そうすると受け入れた場合はこの交付金が出ないということですね、全額出ないということですか。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 副事務長。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） そのとおりでございます。受け入れた分については先ほど申しあげたとおり、診療報酬として確保します。ただ、12床の患者受け入れのベッドを確保してはいますが、説明のとおりですねその確保するにあたっては同じフロアに一般の患者様を入れることはできませんので、実際には25床が空床としてあります。ですから確実に収入として見込める分は25床分で、それと12床で確保した分で入院受け入れをしなかった分というふうに計算しております。よろしく願いいたします。
- 委員長（赤井睦美君） ほかに質問ありませんか。私からすみません。この受け入れは八雲町内の人に限るわけではないですよ。長万部とか森町も要望があれば入ることはできるんですか。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 副事務長。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 当院は所掌する医療圏ですから、当町含めて4町の感染症等の患者の受け入れを基本とします。ただし道南全体で入院患者の調整をすることとなっておりますので、仮に函館圏、あるいはその他の渡島の圏域で入院患者の受け入れがこれ以上難しいという事態になれば、そういう圏域外からの入院患者を受けるよう調整しております。
- 委員長（赤井睦美君） あと個人的な質問になってしまうんですが、知り合いが二人、長万部でコロナになったんですよね。ただでも即函館のホテルだったんです。連れていかれたところが。私は総合病院、満床なのかなと調べもしませんが、そういうこともあるんですか。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 副事務長。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） あの、病床の確保を全体的にはかる観点から、無症状あるいは極々軽症、具体的には37.5℃未満の発熱程度であれば、高齢者以外は原則函館市内に設置されております、ホテル療養に措置するというふうに北海道の方針となっております。ただ、高齢者で重症化が予測される、あるいは高齢者でなくても発熱と同時に肺炎症状が見られてですね、中等症の手前くらい、言ってみればホテルでの療養で対応できないケースにつきましては、年齢を問わず最寄りの受け入れ機関というふうに調整されております。
- 委員長（赤井睦美君） 今満床ということではないですね。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。
- 委員長（赤井睦美君） 副事務長。
- 総合病院副事務長（竹内伸大君） 今のところは、当院につきましては、逼迫してございません。
- 委員長（赤井睦美君） ほかに質問ございませんか。
- 委員（斎藤 實君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 37床あるわけですから、ゾーニング病床の25床、これはどういう状況になったらこれを入れる状況になるんですか。まったく今のところ活用してないんですね。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 25床につきましては、逆にですね、当院で受け入れ可能な主要能力は12床と。それで単純に差し引きで、37床から12床を引くと単純にこれだけのゾーニングが残るとなっておりまして、おそらく当院の能力としては12床を超えるような受け入れは難しいんじゃないのかなと今、計画をしております。ですから37全部埋まるということは現実的にはあり得ないというふうに考えております。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） そのたとえばですけれども、12床が全部埋まってしまっていて、それでもう一人どうしても入れなければならないとなったら、ゾーニング病床の対象から外れるんですか。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 入院受入れの能力としては12床でありますけれども、たとえば圏域の患者数が増えてきて、たとえば13人目の要請があった場合にはですね、既存の入院患者の状態によっては受け入れる余地はあるのかなというふうには考えております。ただ、当院の能力として関係機関に何床まで受け入れるって一定の線引きを示さなければ、ある程度、道南圏全体での圏域でですね、入院の調整は難しいものですから、ですから仮に12床全部で皆さん軽症でした。肺炎も多くないですし、発熱程度、倦怠感程度ということであれば体制が許せば13人、14人という余地はあるのかなというふうに考えておりますが、表立っての体制としては12名として線を引いています。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） そうするとですね、ないと思いますけれども12床を超えたらこの交付金はないということなんですか。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 12床を超えるとですね、受け入れただけ交付金の数は数値は下がってきますから、受け入れれば受け入れるだけ交付金額は下がります。ただ、交付金額が下がってもですね、冒頭で説明したとおり患者様を入院させて治療すると診療行為に当然なりますので、その分は診療報酬として収益を得るという流れですから、決して経済的に損をしているということにはならない制度となっております。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） すみません。聞いていいかわからないんですけども、八雲町においても最近ではコロナ患者が出てきているということで、私の住んでいる落部でも患者が出て、さらにお盆

の帰省を境に検査を受けたという方の噂も聞いております。総合病院として今後を境にコロナ患者、道南のほうも増えてきていますが、どういう展望を描いているのでしょうか。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 委員長、副事務長。

○委員長（赤井睦美君） 副事務長。

○総合病院副事務長（竹内伸大君） 今朝の道新にも記事が載っておりまして、函館含めた道南圏の患者が、今急増していると。それで過去の最大値に近づいているよという記事を私も目にしております。これからの展望としましては、確かに7月の連休、この前の連休をきっかけにですね、今増えていると。もしくはお盆の少し前、人の異動によって感染が拡大しているものと一般的に考えています。従いまして一般的には15日16日くらいまでがお盆のピークかと思われまますので、当院としてはおおむね、来週いっぱいまで患者が増え続けるんじゃないのかなということを予測しております。ただ、八雲町内に限って言えば、これまでの患者の状況を見てもですね、八雲に住まわれている方の感染は極めて少ないのかなと。その点においては非常に住民の皆さん、関係者の皆さんの積極的な感染対策が功を奏しているのかなと考えています。

先ほどの質問でもありましたけれども、函館圏で爆発的に増えたときに、そちら側の圏域の患者を当院でも引き受けするという連携体制になっています、具体的に過去の経過で行きますと、今年の11月12月の2か月くらいの期間に、集中的に函館もしくは函館以外の渡島の感染患者を受け入れたということがございますので、来週いっぱいまでは、そういった圏域以外の患者も当院にくるという予測にいたって緊張感をもって体制を整えているところでございます。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければ、その他ということではなにかございますか。

○総合病院事務長（成田耕治君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（成田耕治君） 内科医師体制についてご報告させていただきます。

8月2日付けで内科医師1名が採用されてございます。現在、総勢5名体制となっております。赴任されたのは、村上正道氏56歳であります。元々の診療科は外科でありましたが、ここ5年ほどは総合内科医師として勤務されてございました。2年ほど前にはせたな国保病院に勤務されまして、当院の内科外来診療また訪問診療の応援に来ていただいた実績がでございます。9月末までは臨時医師として採用し、10月以降から正規医師として採用する予定でございます。

また、大変残念なお知らせであります。平成29年10月から勤務されてございました、循環器内科の森田医師がですね、一身上の都合で9月30日付で退職となります。今後の循環器内科の診療に関しましては、なんとか診療を継続できるように北大など医育大学や北海道医師会等、関係機関、民間派遣機関に働きかけをしてございますが、現状では常勤医師の確保は大変厳しい状況でございます。当面、月曜日第2第4、火曜日、第1第3第5、これは市立函館病院の応援をいただいて外来診療を行います。また、金曜日に関しましては、国立函館病院の支援を受けて外来診療体制の維持をいたします。さらにですね、ペースメーカーの専門外来、それから睡眠時無呼吸専門外来、これに関しては今勤務していただいている森田先生が移動される病院のほうから来ていただいて対応するというところで今話しを進めています。なお、カテーテル検査、またペースメーカーの埋め込み術に関しましては、今連携をします市立函館病院、または国立函館病院に送って対応していただくということで調整してございます。また医師不在曜日や週末祝日に関しましては、救急担当医師が

患者の対応を行い、必要があれば循環器内科のある函館市内の救急病院にドクターヘリまたは救急車で搬送することになります。診療に混乱を招くことがないように、当院、内科医師や関係医療機関と連携を図りながら対応してまいりたいと考えております。また関係医療機関への患者の受け入れ要請、また二次医療圏の病院及び町内の介護施設には支援協力要請をする予定でございます。

循環器の医師の退職に関しましては以上でありますけれども、もう一件、退職する医師がいます。本年1月に四国の香川県からこられて勤務しておられました、内科の渡辺医師であります。これも一身上の都合により9月30日付で退職となります。8月に医師が1名増えて喜んだのも束の間、大変残念でございます。引き続き北海道大学をはじめとした3医育大学、八雲に縁のある医療機関、民間派遣会社など招聘活動を行い、常勤内科医師の確保に努めてまいります。

以上、内科医師体制についての報告とさせていただきます。

○委員長（赤井睦美君） このことについて、質問、ご意見ありませんか。

○委員（斎藤 實君） 一点だけ確認。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） そしたら、内科医師は4名になるということかい。

○総合病院事務長（成田耕治君） 委員長、事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（成田耕治君） はい。4名となります。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければこれで終わります。そのほかありませんか。

○総合病院事務長（成田耕治君） そのほかありません。

○委員長（赤井睦美君） それではこれで終わります。ありがとうございました。

【総合病院職員退室】

【学校教育課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） それでは、続いて八雲中学校大規模改修事業について、学校教育課よりご報告よろしくお願いたします。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） それでは、八雲中学校大規模長寿命化改修事業について、ご説明いたします。

お手元の資料をご覧ください。はじめに、事業目的でございますが、八雲中学校校舎につきましては昭和55年の建築でございます。建築後40年が経過しており、施設の老朽化が進行していることから大規模改修を実施することにより安全性や機能性を確保し、教育環境の改善を図ろうとするものであります。

なお、中学校の体育館につきましては、平成28年度に全面改築を行ってございます。改修内容や事務費につきましては、施設係長よりご説明申し上げます。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 委員長、学校教育課施設係長。

○委員長（赤井睦美君） 施設係長。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 八雲中学校大規模長寿命化改修事業についてご説明いたします。上から順番に外壁改修としましては、既存劣化部分の除去や、下地ひび割れ等の補修を行った後、外壁全面塗装を行うこととしております。なお外壁補修前に調査を行い、既存塗料にアスベストの含有が確認された場合は、適切な手法により除去を行った上で全面塗装を行うこととしております。

外部建具改修としましては、外部に面するアルミ製建具の全部において既存サッシの撤去交換を行い、シーリング改修、網戸を設置することとしております。床改修としましては、普通教室、特別教室、職員室、保健室、廊下につきまして、既存の床仕上げ代を撤去し、ビニール床シートを新設することとしております。内部改修としましては、廊下壁面の塗装及び各教委室の木製建具の塗装を行うこととしております。内部家具改修としましては、普通教室黒板取替、理解室・家庭科室の実験・実験台取替、各室のカーテン暗幕の取り換えを行うこととしております。

生徒用水飲み場、手洗いシンクにつきましては、一部交換及び清掃を行うこととしております。トイレ改修としましては、教員用、生徒用のトイレについて、和式便器を洋式便器へ変更するなど全面改修を行うこととしております

消防用設備更新につきましては、消火栓ポンプ、非常警報設備、自動火災報知設備の更新及び改修をすることとしております。

給水設備更新につきましては、現在、高架水槽からの給水方式をとっておりますが、これを直圧給水方式に切り替えして給水設備を更新することとしております。

建物内照明改修としまして、校舎内照明の全部についてLED照明へ改修を行うこととしております。暖房設備改修としましては、既存電気ヒーターから、普通教室、特別教室はFF式温風暖房へ。玄関やトイレ、特別教室の準備室は電気パネルヒーターへそれぞれ改修を行うこととしております。校内放送設備改修につきましては、経年劣化により一部不調が出ております放送設備につきまして、機器更新、改修を行うこととしております。職員室床につきましては、全面OAフロア化を行い、ネットワーク配線を床下配線化することとしております。

最後に外構補修につきましては、校舎前生徒通路及び職員室駐車場のアスファルト舗装について、経年劣化により舗装の剥がれや表面の凹凸が多くなっている部分も多く、水はけが悪くなっており、生徒の登下校や部活動の使用に支障をきたしていることから、アスファルト舗装の全面張替え及び縁石の交換補修を行うこととしております。

以上が、今回の校舎に係る改修内容の概要となっております。なお、現在、改修に係る実施設計を行っているところであり、改修内容位について変更となる場合もありますので、よろしく願いいたします。

次に事業費につきましては、概算で8億2,000万円を予定しておりますが、改修内容と同様に実施設計により変動することがありますので、ご了承願います。

交付金につきましては、文部科学省の学校施設環境改善交付金の活用を予定しており、補助率3分の1で、おおよそ2億6,200万円と試算しているところであります。この交付金につきましては、文部科学省への採択を要望しているところであり、事業実施については採択が決定し、財源が確定した段階で補正予算を上程し進める予定としております。

次に、今後の事業計画につきましては、令和3年度、今年度を実施設計を行った後、学校施設環境改善交付金の採択を前提として、令和4年度から5年度の2箇年で開始を実施したいと考えております。

以上、八雲中学校校舎大規模長寿命化改修事業についての説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについて質問、ご意見ありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 暖房設備改修について伺いさせてください。今回電気からFF暖房機ということでございますけれども、北海道はどうしても教育現場のエアコンの設置率が低い、当町においてもそう。低いというか付いてないですね。今は国も脱炭素ということですね、電氣化の推奨とかも図ってると思うんですが、冷暖房エアコンに代えるということは検討項目に入っているのかいないのか。それでもしそのようなものにした場合にですね、国としての脱炭素を目標とするということにおいては、なにかエアコンにした場合に良い補助金的なものがないのかということは検討としてあったのか、それで今後あるのかどうか。ほかの学校との兼ね合いもあるでしょうから簡単にはいかないでしょうけれども、こういう改修のときにそのようなことをしていくということが方向性として一つかなと思いますので、ちょっと考え方をお聞かせ願いたいと思います。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 委員長、学校教育課施設係長。

○委員長（赤井睦美君） 施設係長。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 暖房の部分から説明させていただきますけれども、暖房につきましてはいろいろご指摘がありまして、電気ヒーターとか防水暖房、木質ペレット、太陽光蓄熱とそれぞれあるんですけれども、それぞれ概算ではありますけれども費用の検討を行いましたけれども、どうしても暖房方式を大幅に変えるとインシヤルコストがかかってくることになります。現在、電気ヒーターで行っていますので、電気ヒーターにつきましては工事費が一番安く済む方式ではあるんですけれども、ランニングコストが相当かかりまして、それで二酸化炭素の排出量も他に比べて多いというふうに聞いております。それで、暖房の方式につきましては、インシヤルランニングコストが●●使用形態を考慮すると、各部屋の戸別暖房であり、職員室の集中制御が可能であるFF暖房が良いというふうに考えて暖房方式の決定でありました。以上になります。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 当然、断熱性能等があるので、学校も古くなってきているので、暖房設備が非常に難しいというのは理解いたします。エアコン設置率に関しましてはですね、どのようなお考えがあるのか、お聞かせ願いますか。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 夏場のエアコンの部分でございますけれども、今、八雲中学校では、扇風機とサーキュレーターを設置して夏休み期間以外の夏の対策をとっているところでございます。それでエアコンの設置については、全教室というのは難しいという現状でございますので、事業費だとか設置場所を考えると難しい現状でありますので、現時点の構想の中では、保健室にエ

エアコンを設置して体調を崩した生徒等がいればそういったところで休んでもらうことも考えてございます。以上です。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） G I G Aスクールですね、タブレット端末、すべての生徒が持っているという点においてはですね、そういう観点からもエアコン設置は、今回八雲中学校に限らずですけども、考えていかなければならない。確かに北海道の設置率は相当低いですけども、東京のほうではエアコン設置は進んできて、どんどん北上してきている部分もございしますが、今後当然こういう教育現場、この子育ての部分のこととしても考えるべきと考えるんですけども、教育長はその部分をどのように考えていますか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長、教育長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 北海道内においても、これだけ暑い日が続いたりしています。そういった気候に変化してきているのかという押さえもございします。昨年度、八雲町議会におきましても、教室におけるエアコン設置についてご議論いただいております。それを受けまして今年の夏、教室の室温を、あのときの議会でお約束させていただきましたように、教室の室温を計っております。どのような気温になっているか、基本は28℃までという考え方が学校環境の考え方でございしますので、その域内に収まっているのか、それを超えた日はどれくらいの日数があったのか、しっかりと押さえたいと思っています。そして、物理的な面ともう一面、夏休みがですね、年間長期休業50日というかたちの中で今、夏休みが25日そして秋休みが2日、そして冬休みが23日と押さええていますけれども、物理的な面がありますけれども、もう一方で、夏休みのをもう少し長くするという事で、部活動はありますけれども、教室を使う日数を少し減らしてみるとどうなるんだということをもう一度考えながら議会でも十分ご議論いただいておりますので、そこは真摯に検討を進めたいと思います。以上でございします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（黒島竹満君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 黒島委員。

○委員（黒島竹満君） 今のエアコンの関係ですけども、まったく見積もりもしないという話ではないんですよ。一応、見積もりしたりそういう動きはとるんですよ。まったく頭から考えないということなんですか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長、教育長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 八雲中学校のこの大規模改修に対しては、各教室におけるエアコンは現時点では考えていないです。先ほど申し上げました、室内温度などを一方でしっかりとそこを把握しながらエアコンの必要性について確かに時期的には非常に難しいですよね。実施設計を進めていますので。ただそういうところがどういう状況になっているのか、また議会にも報告させていただきながら検討しないということには、昨今暑い日が続く、毎年でございしますので、検討しないということにはならないでしょうから、実施設計が今進みつつも今年度の夏の教室の状況をしっかりと見て、また報告させていただきながら検討なり議論なりに対応してまいりたいと考えております。

○委員（黒島竹満君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 黒島委員。

○委員（黒島竹満君） よくですね、その辺、室内温度だとか関係ありますので、その辺、検討して見積もりするくらいはできるはずだと思いますので、そういった最低限、全教室でなくても、最低限6教室くらいはということで検討してですね、一応、検討したほうがいいんじゃないのかなというふうに思っています。それとですね、今のアスベストの関係ですけれども、内部はまったくアスベストの状況はないんですか。内部については、今これ外壁材は出る可能性もあるということで、おそらく外壁材手をかけないとわからないと思うんですけれども、その辺は今、外壁材の部分しか出てないけれども、内部的な部分はどうなんですか。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 委員長、学校教育課施設係長。

○委員長（赤井睦美君） 施設係長。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 内部につきましては、煙突の内部の断熱等に使用されている●●のときに全部調べていまして、そのときに内部については、八雲町は使用されていないというふうに確認が取れています。ただ外壁につきましては今、黒島委員が言われましたとおり、やってみないとわからないという部分がありますので、熊石の解体のときにもあった話でありますけれども、その分の経費も現時点では取りあえず見込んだうえでなければいけませんので出てこないんですけれども、あった場合には、それを適切に処理するように、現段階で積算はしているところであります。よろしくお願いたします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 床改修なんですけれども、張替えしてビニール床にするということですが、木材使用は検討してみたんですか。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 委員長、学校教育課施設係長。

○委員長（赤井睦美君） 施設係長。

○学校教育課施設係長（若山晋悟君） 既存の中学校の床につきましても、ほとんどビニール床シートを使用していることがありまして、木材の使用は検討していませんでした。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 掃除のしやすさとか衛生面とかそういうこともあって、そういうことなのかなとも思いますけれども、どうなんでしょうね。八雲の木材を使うとかそういうのはコスト的に難しいんですか。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 木材のことにしても、具体的な試算はしてないということではあります、おそらくコスト的には木材を使うことによって事業費は上昇するのかなという部分と、あと佐藤委員がおっしゃったとおり、清掃だとかのことを考えると、やはりビニール床を今と同じような材料を使用することで考えていました。以上です。

○委員長（赤井睦美君） ほかに。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 申し訳ございません。長寿命化工事ということになりますけれども、一般的にこのような大規模改修という場合に、おおよそどの程度の長寿命化を図れるということなんでしょうか。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 今、大規模長寿命化改修については、建築後 35 年から 40 年を目安に一度、長寿命化をしてですね、鉄筋コンクリート造であれば耐用年数が 70 年から 80 年となっておりますので、40 年で改修すると、今後 30 年以上は使用できるというふうに考えております。

○委員長（赤井睦美君） よろしいですか。ほかに。

○委員外議員（三澤公雄君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 三澤さん。

○委員外議員（三澤公雄君） まさしく関口さんが指摘したとおり、今回、長寿命化ということなので、いわゆる建てた中学校を、この後、最後まで使い切るという考えになれば、目先のことの改修だと笑われるんじゃないかと、結局今、資料にあるように、未だに和式便所なんですよ。でしょ。だから今思わず僕ら笑っちゃうけれども、当時でお金がかかるからって改修しないでここまで来たわけだ。それから見てもわかるように、冷暖房エアコンはどうですか。つまり暖房にも使えるエアコンはどうですか。という意見を発しているのに、全く試算もしないということが長寿命化って言葉にあうのか。電気で金がかかるって言っても、今、エネルギーが作れる時代になってる。屋上防水全面改修って謳ってるけれども、ソーラーパネルの置き方によっては改修の仕方も変わってくるだろうし、電気も作れるということを経期的に考えたときに、暖房等に電気を使うことが不利じゃなくなるだろうし、そして床改修のお話も出ましたけれども、ビニールシート式にしてどれくらいクッション性が増すのか、掃除の利便性が上がるのか、検討された結果でそう思ったと思いますけれども、今、戸建て住宅や賃貸の住宅でも、こういったいわゆる化学物質の床の上に木質のフロアを敷くかたちで技術をもって製品化しているところもありますし、そのことによってコストがかかるといっても、たとえば 30 年後 50 年後経ったときに、良い校舎だったねって思い出と一緒にくる国産材、地元材を使うメリットもあるでしょうし、なんかとっても 8 億もかけてもったいない改修案に聞こえるんですけども。べらべらと喋りましたけれども、一連の委員の皆様の質問に対するの答えを後ろで聞いてきた感想を述べました。まったくなっていない改修案ではないでしょうか。

付け加えると、黒板取り替えになんか機能アップのことがあるんですか、ないんだったら塗り替え等で、その辺で節約もできますし、使わなくていいところにお金を使って、使うべきところに使わないそしてその後この大規模改修をやったという事実だけを残しておいて、たとえば水洗化したけれども、ウォシュレットの付かないトイレはどうなんだって数年後指摘されても、お金がかかりますからねって、あのとき言ってもらえればよかったみたいな感じで、世代の変わった管理職に否定されるのが目に見えている感じなので、もっとこれが最後の改修、長寿命化のスパンでいけば、これが最後の大型改修だと思えば、もう少し根本的に文厚の委員さんの意見を考えればですね、考え直さなければいけないことなんじゃないでしょうか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長、教育長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 実施設計を今、行っている最中でございます。それでその際に今、実施設計の途中にあるということで、本日、文教厚生常任委員会に説明させていただきました。当然、説明させていただいた趣旨は皆さん方のご意見をどのようにいかすかということは考えなければならないということで、中間報告をさせていただきますので、実施設計を進めながらですね、どのようなことができるのか、望ましいかたちにするのは、どの程度まで加えていくことができるのか考えながら実施設計進めたいと思います。本日のご意見をできるだけ踏まえまして設計を進めさせていただきますと思います。ありがとうございました。

○委員外議員（三澤公雄君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 三澤さん。

○委員外議員（三澤公雄君） 実施設計って、基本設計を作るときに、よく実施設計のときに考え方を盛り込んで変えていきますっていうことで議会をよく通るんですね。そして今、実施設計の中間報告ということであれば、その実施設計のときに出てきた異論だとか、ここで出た中間報告に関しての意見なんかは当然、何がしかのかたちで検討した後がないとおかしいと思います。黒島委員がおっしゃったように見積もりもしないのかという部分では、ちゃんとしたアクションをしてもらわなければいけないと思いますけれども、これ以上は僕も部外者なので発言をここまでに控えます。

○委員長（赤井睦美君） 私たちも総合病院でエアコンを後付けにしてすごく高くなるだとか、熊石の保育園もエアコンが付いてなくて、今年の夏は非常に大変でエアコンを検討しているだとか、そのとき私たちエアコンにしたほうがいいんじゃないって言ったんだけど扇風機だったんですね。そういうのを経験しているの、やはり多少お金がかかっても後から、やっぱり追加しましょうとか、こうすればよかったとならないように、しっかりと検討してほしいと思います。

それと八雲小学校ができた次の年に、子どもたちが訪問したときに、次の年なのにビニールの床が本当に汚くて、ごみが取れない状況だったんですね。私は何で新築でこんなにお掃除しても汚いんだろうと思ったので、そのビニールシートだと掃除が楽だというけれども、衛生面をしっかりと考えて本当にそれでいいのかとかしっかりと検討していただきたいと思います。

ほかにありませんか。トイレの件もね、水洗化、今おっしゃいましたけれども、ウォシュレットがついてるだとか、それからLGBTQの方たちのトイレを考えると、そういうことも全部含めてしっかりと子どもたちが本当に安心安全で通える学校にしていきたいと思います。

ほかにありませんか。多分、みんなはこの8億2,000万円が、よりいかされる、多少増えてもやっぱり後から後悔しないものにしてほしいと思っていますので、よろしく願いいたします。なければ、その他でなにかございますか。

○委員外議員（三澤公雄君） 付け加えると。

○委員長（赤井睦美君） 三澤さん。

○委員外議員（三澤公雄君） 去年、ちがうことで教育のことで町長と一般質問をしたときに、私は教育にお金は厭わないという素晴らしいセリフを確認できたところなので、是非、学校教育課の皆さんもそのことを思い出して、考え直していただきたいと思います。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） これと全然別で、八雲中学校のバスケ部全国出場おめでとうございます。それで今そういう全国大会でコロナになったとか、結構出てきていますけれども、もう18日からなのでもう行ってしまっているんですけれども、なんかその対策というかそういうのは指導みたいなのはあったのでしょうか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長、教育長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 道教委から部活動に関する通知は出ていました。それで全国大会などに参加した場合に、帰ってきてからたとえばPCR検査を受けるとか、3日程度接触しないように、言ってみれば学校に通学しないようにという通知がございまして、それらも踏まえまして群馬で大会を行われまして、今日から19日から行われますけれども、帰りに空港でPCR検査の無料の検査を受けて、そして帰ってきてそして日曜日に帰ってくることになると思いますけれども、3日間程度学校を休んでいただく。こういったことも保護者の方に説明しながらご理解いただいて、そのような帰ってきてからの対策を立てるようになっておりましたけれども、空港での無料のPCR検査はもういっぱい受けられないとなったものですから、帰ってきてからですね、総合病院で検査を受けるという方向でですね、それで3日間休んでもらうという方向で調整をしていると思います。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 行った先のことは、行った先に任せてると思うんですけれども、向こうのほうで検査体制を整えているという情報はないんですか。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（石坂浩太郎君） PCR検査の検査体制ですけれども、向こうの主催者側ではそういった検査の体制を整えていませんが、行った生徒、それと引率の先生方については、行く前の2週間前からの健康状態の確認、体温だとか体調の確認をしているのと、大会期間中についても同様に毎日体温、体調を大会本部のほうに報告するという事で状態を確認しておりますけれども、その結果については教育委員会のほうにも毎日報告をいただいているという状況でございます。今のところ発熱等の症状が見られる関係者はいないということでございます。

○委員長（赤井睦美君） よろしいですか。ほかにありませんか。

なければこれで終わります。ありがとうございました。

【学校教育課職員退室】

◎ その他

○委員長（赤井睦美君） その他で皆様からなにかございませんか。なければ、事務局から。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） まず、次回の文教厚生常任委員会ですけれども、9月につきましては定例会を9月9日から予定しておりますので、その会期中に開催したいというふうに考えております。なお、委員会の報告書につきましては、現在、作成中でございますので、その委員会開催の前にまず皆さんに一度、前報して、意見を聴取してから会期中の常任委員会で再度確認して提出するという流れで考えてございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。なければこれで終わります。お疲れ様でした。

〔閉会 午前10時51分〕